

定例教育委員会会議録

令和5年6月28日

境港市定例教育委員会（令和5年6月28日委員会会議録）

招集年月日 令和5年6月28日 15時30分

招集場所 市役所第一会議室

開 会 15時20分 教育長宣言

教育委員会 教育長 山本 淳一

委 員（職務代理人） 中田 耕治

委 員 十河 淳 渡邊 不二子 大部 由美

教育長から説明のため出席を求められた者

教育委員会事務局長 松 原 隆

教育総務課長 角 純 也

教育総務課長補佐兼指導係長 柳 樂 力 人

生涯学習課長 松 本 昭 児

管理係長 今 井 洋 介

傍聴者数 なし

会議書記 管理係長 今 井 洋 介

提出議案 議案第24号 境港市社会教育委員の委嘱について

議案第25号 境港市文化財保護審議会委員の委嘱について

協議事項 6月定例市議会教育委員会関係質問答弁について

報告事項 6月の行事報告、7月の行事予定

境港市民図書館の利用状況について

【1. 開会】

山本教育長

皆様お揃いのようなのでただいまから6月の定例教育委員会を始めます。

【2. 前回議事録承認】

【3. 議事】

山本教育長

早速ですが議案第24号境港市社会教育委員の委嘱について生涯学習課長より説明をお願いします。

松本課長

議案第24号境港市社会教育委員の委嘱についてです。令和5年7月1日から令和7年6月30日までの2年の任期になっております。委員名簿の15名のうち下3名の方がこの度新任ということであてさせていただく方です。14番の奥村さん、15番の伊藤さんについてはあて職ということでこの度新たにお願いしています。13番の山崎さんは、やしゃごベースの運営等をされている方で、海とくらしの史料館の大池館長がこの度ご辞退され、それに代わる方ということで社会教育の実践等をされている山崎さんにお声がけさせていただきました。

山本教育長

ただいまの説明についてご質問等ありますでしょうか（質問等なし）。それではご承認いただけますでしょうか（異議なし）。議案第24号については承認といたします。続きまして議案第25号境港市文化財保護審議会委員の委嘱について生涯学習課長より説明をお願いします。

松本課長

議案第25号境港市文化財保護審議会委員の委嘱についてです。委員名簿に記載の5名の方いずれも前回からの再委嘱となっております。令和5年7月1日から令和7年6月30日までの2年の任期でお願いしたいと考えております。

山本教育長

ただいまの説明についてご質問等ありますでしょうか（質問等なし）。それではご承認いただけますでしょうか（異議なし）。議案第25号については承認といたします。議決事項としては以上となります。引き続き協議事項に入ります。6月定例市議会教育委員会関係質問答弁について、事前にお配りした資料に目を通していただけていると思いますので、ご意見等あ

りましたら、ご質問いただければと思います。

渡邊委員

不登校の児童生徒が本当に増えていて、全国的にも増えている中、境港市もやはりそうなのかと感じています。小学校での不登校がすごく増えているのも同じなのだなという風には思っ
てみているのですが、昨年から倍増しているのですよね。不登校に対する文部科学省の手立てに対して、先生方や教育委員会の皆様方もすごくいろいろな手立てをしてくださっているのだ
ろうなと思うのですが、不登校について何か傾向性みたいなものはつかんでおられるでしょうか。例えば病気とか、家庭の事情とか、割合的にどうなのかとか。私の肌感覚なのですが、学
習でつまずいている子どもさんもすごく多いなと思うような感じがしているのですがどうでしょうか。そういったところをち
よっと聞かせていただけたらと思います。

柳楽補佐

傾向としては、それぞれ様々なものがあって、本当に多様化しているというのはあるのですが、言われるように、学習のつま
ずきというのも要因のひとつになっております。確かに今言われるように小学校の方が年齢的にすごく多くなっていますが、
ただ今回特別支援コーディネーターを増員したりですとか、ずっと続けてきた指導補助員の複数配置もあり、低学年、特に1
年生においての不応はすごく少ない状況を保っている状況です。しかし、やはりだんだん学年が上に上がっていくにしたが
って、このコロナ禍というのもあるのですが、その他にも本当にいろいろな状況によって不登校になっています。昼夜逆転を
完全にできてしまって、以前教育長も話されていたと思うのですが、本当に太陽に当たって見なくて見るからに顔色が青白い
ということもあったりして、そのあたりを何とか改善できないかと学校も取り組んでいたりします。ただ、学校に復帰すること
がすべてとしたうえではなくて、それぞれのお子さんに合った支援をしているところです。

渡邊委員

サポート教室みたいなものもあると思うのですが、現実問題今
どこの中学校で特に別室登校の生徒がいるのでしょうか。結構
いますか。

柳楽補佐

別室でやっている生徒もいます。今のGIGAスクールの環

境等も十分使いながら、ハイブリッドで教室からというのは生徒さんが希望されて、場合によってはそういうのもやっていますし、現在サポートルームというのを準備している段階で、その人材確保を進めているところです。

中田委員

資料の数字を見ると、令和4年の不登校児童生徒数と境港市教育支援センターやすらぎルーム利用状況の利用人数を比較したときの割合として、不登校の児童生徒さんのうち4分の1程度がやすらぎルームを利用しているということで、あとの4分の3はなかなか家から出られないという風にみたらいいということになりますよね。実際先程話にあった昼夜逆転してというところも非常に危惧するところではあるのですが、自分の経験からすると、例えば明るい不登校というような、少し表現は変ですが、この間も不登校の子どもと話をする機会があって、私と話ができるということは学校に行けないということに対して吹っ切れた状態だから話ができるのだと思ったものですから、少し話をしたのですが。やはり学校に行ける、やすらぎルームが利用できる子どもはまだ大丈夫だなという風に思いますが、行けないということは、学力とか人間関係とか、そういった環境すべてが嫌になってというような、そういうことがあったからなかなか出られない、そういったところも利用できないというようなことであるならば、いくらいろんなハコ・モノといった設備を準備したからといっても、こうやって書面上で説明するばかりになってしまいかねないかなというのを少し危惧するところです。あとはやはり保護者の方のケアというところもあるのでしょうけれど、行くことが良くて行かないことが悪い、というわけではなくても、保護者さんも、多分生徒さん本人が一番、行けないというのは悪いことだと思っているという風なことともあると思うのですよね。今後、そういったところを緩和させるような取り組みが必要なのでは。まあそれはやはり学校というよりも保護者の方に対して、保護者の方をそういう風に仕向けて行かないと、時間的に子どもに接するのは保護者の方が多いわけですから、そういった気がしてならないなど。家庭でも自学ができるのかというような不安、学校に行っていないから不安でまた逆に出られないということがあるとすると、自分にどのくらい学力があるかというのを、子ども自身や保護者の方等が認識できるシステムができたらいいなと思います。

それはもうあるのかもしれませんが。そういうことで戻りやすくなると思いますし。勉強はしたくても、とか、ただなんか学校に行けないから不安が募っていく、だからまた逆に学校に行けなくなる、そういったこともやはりあるというような話も聞きました。本当十人十色ということでケースはみな違うのでしょうけれど、そういったことももしかしたらあると思いますので学校も、皆さんのご苦勞というのは並大抵のものではないなというのはわかるころなのですが、もう少し、行けない子どもたちの声が聞こえてきたらいいなと思います。それを聞く術がないのかなと。

渡邊委員

おそらく情報を出していってくださっていると思うのですが、その返答といいますか、つかむところというのをどこにじゃあ返していくかというところがすごく難しい部分ではあるので、たくさんの居場所を作ったり極力情報発信してもらって、自分で学べるような環境みたいなところを、おうちの人も多分わかられないと思うので、つかんでいけるような情報発信はやはりしていただきたいなという風に思っています。本当に大変だろうと思いますけれど。

中田委員

ネットに籠ってしまってパソコンに向かってという、それが必ず悪いという風にイコールになってしまうというようなことがあるじゃないですか。それが必ず悪いというわけではなくて、ネット環境というのもいい部分では、いろんな世代の人が知り合えるきっかけにもなるということもやはり忘れてはいけなことはないのかなと。ネットでもリアルな付き合いの中でも悪い方に引っ張られるということは起こりうることであって、そこでもととの家庭であったり本人さんであったりの善悪の判断基準やものの考え方というのが関わってくると思います。家庭での教育等になってくるのだらうと思いますが、そういったところを踏まえたうえでのその指導になるのかなと。イコール悪いという、わからないから悪いという風になってしまうといった風潮だなという風に少し感じてしまうところでは。それでひっぱりあげてもらえるとコミュニケーション能力が高くなる。

山本教育長

今不登校の児童生徒の人数が急激に増えたのですが、今小学校で出ている24名の不登校の児童のうち低学年は、先程柳楽

補佐が言いましたけれどほとんどいないんです。何人かはいま
すけど。で結局5、6年生です。そして、ひとつの小学校には
ゼロですので、ということは5校で、1つの学校に5人いると
いうことです。5、6年生で。それは1クラスに1を超えてい
るという状況で、驚くほどに低年齢化してきたということと、
今後中学校はその子たちが上がっていくところになりますので、
3、4年は改善の方向には行かないということが見えているの
ですよね。でも今中田委員がおっしゃった中に、すべてが嫌に
なっている子という表現がありましたけれど、実際に学校の教
員が会えない子というのが出てきています。家庭訪問してちょ
っとでも顔が見られたらいいねなんて言うのですが会えないと
いう状況は、やはり安否の確認も含めて、なんとか細い線で
でもつながっているといいなと思っていて、それをみんな一緒
くたにして不登校ということで扱っているなというのを今反省し
ました。見えない子も不登校だし、行けない理由や気持ち等を
自分から解説してくれる子も不登校で扱っていて、そのあたり
は扱い方を変えないと。学校の教員が会えない子に無理に会
わせるというわけにもいきませんし、親御さんのサポートから入
って支援をしていくことを別々に考えないといけない段階だ
なと思います。一緒くたに不登校不登校と、数が増えれば特に十
把ひとからげのような扱いになりかねないので、個別の対応と
いう個に最も応じたものの提供ができるような体制と、個の困
り感に寄り添っていくスタンスを、こうするとこうだという方
程式はなかなか導けないとは思いますが。しばらく不登校の
割合に対する一般社会の認識の変化も当然今後やっていか
ないといけない時代に来たのだらうなとは思っていました。非常
に難しい問題だなと。間違いなく低年齢化しています。不登校
も生徒指導もいじめも全部低年齢化していっていますね。なん
か下へ下へ落ちて、そして、指導していかないといけない時
期にきているなというのは思っていますので。いろんなご意見
ありがとうございます。

山本教育長

そのほかいかがでしょうか。

大部委員

小中につながる幼稚園や保育園でも、なんか行きづらいとい
うのはあるのでしょうか。私は幼稚園に12～13年携わせて
もらっていて、結構この間から話題になっている、言語のこと

だったりだとか、その部分でいうと本当に明らかに子どもたちが言葉を解釈する能力が低くなっているなと思います。そうするとおそらくそのまま小学生になって急に座る時間が長くなって勉強するようになった時に、おそらくそこからつまずきが発生して、算数をやるにも理科をするにも物事を理解する言葉が長けていないからつまずくという。そしてその傾向としては、やはり家族間の問答が無かったり、Y o u T u b eを見ておけばみたいな感じで一方通行の垂れ流しに情報が入ってくるみたいのところから、言ったこと等が本当に合っているのか間違っているのかわからずに理解が。だからその、発育発達の段階で障害と言われるお子さんいらっしゃるじゃないですか。私はそんな詳しくないのですが、それって最近のだと大人が逆に生み出しているのかなという風に思うんです。家庭環境が。本当は障害として生まれ持っていないのに3歳とか6歳の生活環境の中で障害児になってしまっていることが原因で、小学生から中学生になっていくうえでものごとの解釈が幼いとか未熟になった中で、できない分、自分が理解できない社会に飛び込まないといけない恐怖とか不安感があるがゆえにこういうことがどんどん多分これから止まらずに増えていく一方だなと思うと、着手するところをどこにもっていくのかというのとか、例えばそのサポートするところだけをつくったら、ただあふれてしまうような。その生み出さないとか原因をもっと追究するという、現象ばかりを追いかけていては、箱ものを作れとか人を増員しろになってしまうので、原因がわかれば多分そこに着手してというのができるようになればいいなという風には、その考えるサイクルをちょっと変えていくというのかというのが、もうそれが正解とかではなくて、皆さんのご意見を頂けたらと思います。

渡邊委員

私はちょっと保育園にも関わっているのですが、小学校とか保育園とかの子どもで、この3年間のコロナですごく、姿勢保持ができない子どもが。前もいましたけど、結構増えてきているから。

大部委員

すぐ座ります。5分とかすぐ話を聞く段階ですぐ座る。先生に立ちなさい立ちなさいって言われて。

渡邊委員

やはりそのコロナで人の表情を読み取るとかマスク生活だっ

たりとか、それから何よりも外にあまり出ていないので、おそらく園で遊んではいるけれどもそこらへんで遊んでいるみたいな感じで、体験での活動ってすごく下がっているのではないかなと思っているので、そういうところ、もしかしたらまたこれからいろいろね、他にも要因はいっぱいあると思うのですが、もっと顕著に出てくるのかななんて思いながら聞いているんですけど、今お話聞きながら思いました。だからなんというか体験不足のために人との関わりがうまくできなかつたりとか環境にうまく適合できなかつたりで、なんかあの子おかしいねみたいな感じで、ちょっと発達がうまくねいっていないのでグレーゾーンがすごく来つつあるのかなって。

大部委員

体験のところ、私は私立の幼稚園に携わっているので、体験イコールどこかに行かせて親御さんが満足するのが体験になっているケースが。遠足を多くとかではなくて、園の中で土いじりとか、例えば本当に集中してものごとを積み上げるとか、石を拾ってきてどう組み合わせればたくさん積めるだろうというようなことでも大きな体験だと思うのです。その体験のはき違えが、行事をこなすとか、運動会でいっぱいカメラが並んでいるとかではなくて、リアルにガッツポーズや笑顔が出るような体験がまさに育成と言われている10代までに行っておくべきことが、少し大人の勝手な考えで、家族ならディズニーランドに行つて昔の写真があればいいだろうと思うけど、じゃあ実際子どもが成長したときに覚えていないとかってなるじゃないですか。だからそれなら海の何かいろんなものを触っていた方がいいとか、なんかその大人側の思考をもうちょっと変えていかないと、何かそこはもっと危うくなるかなという風に。いろいろ裸足でやりましょうとかいうことを多分やられてますけど、なんかもっとケガギリギリまでやらせてもいいんじゃないかとかって思うのです。でも骨折はしてみないとわからないし、突き指もしてみないとわからないし、昔みたいに伸ばしちゃだめよっていうのを経験すればいいし、なんかその方がいいんじゃないかと思うのですけど。赤チンでも塗ってあげたいな。そんな感じで本当にちょっと恐怖を感じます。

中田委員

親世代がそういった経験をしていないということが一番なんでしょうね。だからそういったことになる。自分がしたことっ

てやはり子どもに対してなんかいろいろあるでしょうけどやはり経験がない方が多いでしょうから。

山本教育長

間違いなく保育園幼稚園というエリアにまでもいろんなものが下がっているという。私は一つは家庭要因の複雑化というか、家庭環境の多様化が、自分を肯定するために多様と使っている可能性があるのです。いかに家庭教育に教育というエリアを少しずつ移していくのかというのが今後重要になってくるだろうと言っているのです。教育イコール学校教育、次に社会教育で、家庭教育はそりゃあまあいろいろだよねって終わっているのですよ。ところが一番長くやっているのが家庭教育なのですよね。そのすみわけが、学校がみんなしつけまでやっていた時代もあったからか、叱ってもらえる、注意もしてもらえる。問題を起こした児童生徒の謝罪を教育委員会がやっている。何かはき違えがあるんですよ。学校が、あるいは教育委員会が全部やってしまっていて、やはり大人が何を教育していたのか、親が今までどうやって導いて、やらかしてしまうことはたくさんあるんですけど、その時に親がどう動くのかというので、あの時父親に頭を下げてもらって恥をかかせてしまったことは絶対忘れないとか。先程の大部委員じゃないけれど、骨折することも大事、そんなことをするから骨折するのよ、ということ、誰が花火を持って2mから飛び降りるのだとかなりましたっていうようなことをやってみる体験、それらを含めてすべて体験と。なぜそんなことを安全対策をとらずにやらせたかと学校が問われる。だからサクセスストーリーの体験を選ぶようになってしまったり、社会構造の変化をさっき一番言った家庭教育に重きを置いてそれぞれ家が自分のプライドをもって、その子どもを育てていくということにしないといけないんでしょうね。そんなことはすぐには、じゃあ明日からそうしましょうと言って通用するわけないんですけど、学校に頼るシステムを少しずつ切り離していくということ、そして学校の中でやはり鍛えるということ、それをベースに教育を流していくということがひとつの土台にならないと。なかなか難しいところがありますが。だから長いスパンで見ておくところと、今何を対応していくのかということとを上手にミックスさせてバランスよくアプローチしながら世の中を変えていくということが求められていくのだとは思いますが。

中田委員

話をもとに戻しますが、先程の不登校の話にしても、行かないという選択肢もあるじゃないですか。子ども、家、家庭、保護者の。行かない選択をしたのだったら、どういう学習をしたらいいのかというシンプルな話になってきますよね。行けない子に先生が一生懸命爪をはじいていても時間ばかりかかってしまって、あとはもう切り離してしまってこれは家庭でお願いしますねといわれるように、本当に家庭の責任という部分をもう1回戻していくことを明確にしていくところといった不登校というのも不登校にはならない。行かない選択肢をとったという。とった以上は自分たちに責任がありますよねっていう。言い方はあれですけど。

山本教育長

それが明るい不登校をつくられる大きな要素で、親がこれは私がもう代わりにしっかりやっていかないとだめなんだっていう、うちも不登校になったけど担任なんか来ないよとか。最後まで甘えちゃう。本当だったら自分のことでしょというところを学校は義務なんだからやってよというところがね、あるのでしょうか。

大部委員

文化が違うかもしれないですけど、海外は別に学校に行かない家庭も多くて、エリアの中で、家庭でされるとか、それを日本で置き換えるのは全然違う話だと思うんですけど、不登校が登校ありきになっているので、不登校の言葉自体もうちょっと変えた方がいいかなって。在宅的な何か。家に登校する感じとか。親が先生だったりもするからそういう感じで。ただ難しい、数学とかそういった特別なこととか我々では忘れてしまっているようなことを教えるということは難しいかもしれないですけど、それをなんかうまく今のネットワーク社会に取り入れるところ、親御さんがそれを選択して子どもが選択するのであれば、何かしらそれは明るい兆しが見えてくるのかなということでもあるのかなとか。例えば私がサッカーを月謝を払ってやっている身だとすると、別にお金を払って先生を雇えば別にそれはそれでいいことだって出てくる。塾だってそういうことだと思うんですよね。学校にとってなんか少しちょっと足りないから塾に行くって本末転倒だと思うんですけど、そういうのと同じようなことなんじゃないかなと。だから逆に、厳しい言い

方になるかもしれないですけど、学校を選んでいないっていう、選ばれてない学校というところもあるのかなという気もしなくもないので。

山本教育長

それはもうおっしゃる通りで、アメリカでは選択制の教育が進んでいるので、教員免許を持っていなくても、家庭で教えられる資格があります。この期間私が子どもを教えますと。そうするとエレメンタリースクールを卒業したという資格が出るような制度があります。きちっと。そういうことを例えば家庭教師をサリヴァン先生呼んできて教えたらそれはだめなのかといったらそっちの方が上等だ、という選択肢が親の中にはまだないということなんですよね。社会がみんな学校というところがやってくれるって期待するから、学校は連れて行かなくちゃいけないと思っているんですよ。大部委員が言うようにやはりいろいろな子どもにとって最もいいと思われるような選択肢が選べる環境や、そういうことを用意できているところがやはり今後必要になるんでしょうね。まだまだその辺の志向性が広がらないというかグローバルな発想に日本社会は行かないで、欠落した部分をみんなでああいうことが漏れているというような言い方が非常に強くなるというか。社会全体がね。だから総花的に文部科学省がなくなってしまおうし、あれもこれもこうやってと言い逃れを必死で考えるという状態にならないように、やはりそれぞれ地域の独自性が出せるとか、魅力があつてとか、学校も境港市も選択制で、狭いエリアなんだから自分が行きたいと思う魅力を語る学校へセレクトしてセカンダリースクールから行けるとか、ジュニアハイスクールから行けるとかいうような選択肢というのを本当こうもっとオープンに作り上げられる仕組みが必要なんでしょうね。なんかそういうことははみだし行為だみたいな、右見て左見てもう一度右見てからやれよといって何か圧がかかっているという感じはありますね。出る杭は打たれる方式の何かそこまでの強い言い方は変ですけど、私あまりそういうことを勉強していないから、例えば中学校になったらセレクトできるように学制から選択制へ移ることが可能なのかということを私が学んでいないからテキトーなことしか言えないんですけど、世田谷区や品川区がやっている選択制の学校、学校の競争をあおっているのではないかという批判が出ますが、チャレンジしてだめなら元に戻すくらいの感覚で、

やはり子どもの最適解、学びの最適解を選んでいくというようなシステムが出てこないといけないんでしょうね。アイデアとか自由な発想で今のニーズに合うものを探していかないといけない。

山本教育長

そのほかいかがでしょうか。

渡邊委員

教育長さんは、ワーキングチームに入っているのでしょうか。そういうプランをどういうところで、いろいろな検証、義務教育学校もそうですし、6・3・3制とか、今それが必ずしも正解ではないし、いろんなチャレンジをしてみるといった。失敗が許されないというのがすごくプレッシャーだとは思いますが。

山本教育長

いよいよ動き出すということを宣言しまして。

渡邊委員

何年ぐらいの見通しでしょうか。小学校は10年ぐらいは今の子どもの人数でいくと維持できそうみたいな感じですよ。

山本教育長

やはり減っていくのは止められない状況に今あって、減っているから作るというよりもその未来の学校を作るから合わせるんだという発想で考えています。それでやはり子どもにとっての最もよい環境を、今ある4案にプラス米村議員が言ってくれた5案目というのを混ぜて、メリット・デメリットがすべてあるので、これがナンバーワンだよというのは描けないんですけど、それぞれのメリット・デメリットを今絵に描いていくところでして。それで今後、うちだけでこれで行きますと決めるわけではなくて、皆さんにもお諮りしながら、地域の声を聴きながらいく段取りで行こうという具合に思っています。ワーキングチームを作ったのは、教育だけの発想だと、ヒト・モノ・カネというところの、ヒトを持ってきたり、ヒトを配置したりというのは教育委員会ができるのですが、どういう設備、施設を用意してとか、これからの境港市役所内における建物の維持管理とか、子どもの利便性や保護者のことだとかいろんなことを複合的に考えないといけないので、総合政策課やそれから建設、それと子育て支援課というようなあたりが、ひとつのチームを組んで横断的にそういう話をしていく会を発足させ

たということです。だから今までは私が勝手に描いていたものを協議してもらっていたけれど、建物の優先順位だとか、耐用年数が実は学校も迫ってしまっていて、それから冷暖房を入れ替えるのに、果たしてその場所を使うから冷暖房も新しくするのか、ちょっとずつつぎはぎして修理しながら使うのかというような判断もしないといけない時期がやって来ていて、そういうこともあり、ただ市長は子どもたちの最も学びの環境としていいところを探していこうということでブレる必要はないと言ってくださっているのです、そういう面では、私がこう話していく、イニシアチブをとっていける環境にはあるだろうと思っています。いろんなものが作用していると思います。今、人が来てくださって賑わいが戻りつつあるようなことや、水産業が夏はまぐろだとか冬はカニだとかがある意味定期的にきちっと揚がるということで財政の基盤がある程度あるということで、そういうことの回答を市長からいただいていると思っていますので、これはありがたいことです。これが本当に傾きかけた、例えば炭鉱で石炭がもう取れないという町に新たな学校を作ろうと思ってもなかなか大変だったりしますが、ある意味それがほんわかしていることで甘えてしまっていることにならないようにしないといけないと思っています。やはりどんな状況であっても学びの環境づくりというのが、必ず必要なのだということ、そして今までのものを丁寧につぎはぎ直しながらやっていくということからダイナミックに変更していくという、これはこの前の図書館の時にもお話ししたように、みんなの図書館という言い方をみんなの学校というところに置き換えてこの前書きましたけれど、今使っている言葉としては、一番とがった言葉として皆さんというかこのワーキングチームに言っているのが、コミュニティスクールでスタートして地域と学校のつながりを持ったものを、スクールコミュニティに変えていくんだと言っています。学校をコミュニティの基地にする、スクールコミュニティに変えるよと言っています。これは、学校に行けば、極端なことを言うとコンビニもある、給食も食べられる、福祉の相談に行ける、子育ての相談もできる、というような、学校は教員のものから地域のものに変えていこうと思っています。つまり学校を合併するのか何校にするのかというのが目的ではなくて、学校の機能自体を作り替えようということはここには言いませんので。これもとても難しい、相当な時間をかけてコンセ

ンサスを得ないといけないけれど、でも校舎が建つのに早くても3～4年はかかりますので、そうすると本当にもう時間はないという具合に逆算しています。きちっとした道筋を立てておくことが私の一番の仕事だろうなと思っていますので。

中田委員

スクールコミュニティはとてもいい話だと思います。とても説得力があつて。

渡邊委員

いい話。生涯学習とかみたいな感じで。

山本教育長

字をちょっとひっくり返しただけでなんか変だなと思われるかもしれませんが、一番説明するにはわかりやすいだろうなと思っています。難しい横文字を使うわけではないので。学校がコミュニティになっていくというのは、みなとテラスがいくつも作られるみたいな感覚で、本も借りられるし、上でコーヒーも飲めるし、だったら行こうか今日みたいな、冷房に当たりに行けばいいじゃないかみたいな感覚で行けたらいいなと思っています。公共施設はみんなそうなればいいなと思っています。長い目で見ると。体育施設も含めてね。生涯学習という観点はその社会教育の中で大きくウエイトを占めてくるような流れをつくるには学校自体を学校教育から切り離すと、建物は生涯学習としての一部分で、強化しているのは子どもたちで、そういう使い方があつたって全くおかしくないだろうな。

大部委員

そう思うと、私のすごい印象だと、学校を先程も言われたみたいに教員のものから地域のものにしていくという中の、先生方の考えをすごく変えていかないときっとその課題は前進しないというか。多分自負もあられるでしょうし、今まで先生方に我々も頼ってそうやって生活の基盤となるものを多分作ってきた中で。少し学校ってやはり閉鎖的だなと今自分が関わっていて思うんですけど、どうしてもなんかこう他の人が関わると悪いことを入れ知恵されるんじゃないかみたいなことがあつたりだとか、いい人ばかりではないみたいなこととか、言葉の使い方であつたりかかわり方によってはマイナスを生むかもしれないみたいな多分そういった心配事があつて、ある程度の人はいいけどそこまでにしてくださいみたいな、なんか自由に行き来ができないような感じを。それはまあいろんな町の先生とかで

チャレンジしながら、少しコミュニティスクールもなっていったりするので、そこは少し歩み寄りましょうみたいなかたちになったりだとか。先程も言いましたけれど骨折も必要ということは、少しガミガミ言うおじさんも必要みたいな。そこで社会性を学んでいって、いい具合に無視するとかいい加減に関わるとかみたいなことも多分。で先生方も社会との関わりってあまりない中でやられていると思うので、私はすごくいいなという風には社会がなるというところで、子どもも大人の社会を学べるというのが学校にあるのであれば、それは一番いいことだなと思います。

山本教育長

本当の土台は人権の感覚だと思います。人を、子どもを面倒を見てやるという具合にとる感覚から、今子ども家庭庁ができて子どもまんなか社会の実現と言っていますけれど、子どもの人権というものを日本はちょっと粗末に扱すぎてて。もっとフラットな状態で、子どもを教育してやるんだではなく、子どもの意見を尊重していくという社会や、それから人権の感覚が変わってくることによって、今大部委員が言ってくださったようなことが地域のものになっていくと思うんですよ。教員を変えるのもやはりその人権の感覚が教えてやるという感覚に常にあるからですね。これを変わっていくと、随分と子どもに教えられることって多いよねという発言が、今でもたくさん出ているんですよ先生方から。でもそれを子どもの言う通りにしていたら大変なことになるという感覚が押し戻していくので、そうだろうかと思うところなので、そういうことにチャレンジしていってくださったりすることがコミュニティスクールを実際に動かしてしてくれたことで、南部町みたいにまだ行っていないところがあるんですけど、地域の方々が運営委員として学校の経営方針を承認しているというところに大きなポイントがあって、学校長、あるいは学校の教員だけで学校は動いていないんですよっていう、ここが一つのベースになっているというところに、コミュニティスクールが非常に大きな影響を持っている方式になっていくだろうなと思っています。これはとても良い方向で今境港市を導いてくださっていると思うので、それを軸にいろいろなことをやってくださっているから、その話を聞くとなんかこちらもわくわくします。今度はあそこに行ったよ、ここ行ったよと。三中は修学旅行に行く前に水木しげ

るロードで、お店の方に、お店のことやSDG ‘sの取り組みのことについてインタビューしてすごいなあと思います。修学旅行につなげられるのはごく一部かもしれませんが、でもやはりそういう能動的行動に出て自分で探求していく、そうしたらなんでしょうね、子どもの見つけたことって大きいね、すごいことに気づいているなということ、そうか環境のこと、私たちなんか割り箸を洗って使おうと思わなかったよって、なんか子どもに教えられるというひとつひとつの積み重ねが変わっていくんだらうなと思うので、ぜひぜひこういう意見を地域の人たちに出向いて行ってやっていく時期が来たという感じなんですよ。説き伏せてやろうとか一つも思っていないですよ。やはりメリット・デメリットがありますから、いろんな発想やいろんな考え方をもらって、それでもやはり骨子を作るのは、骨格を作ってこれで行くよというの、しっかりとした人権の上に成り立つブレのない骨組みがあれば、あとはそれをインナーマッスルとかつくらないと体幹が弱くなるわけですよ、しっかりと骨身にくっつけていってかたちをまあ最も子どもたちにとって幸せを獲得できる方法の学校づくりを目指すんだというのが頭の中にコンセプトとしてはおいていますので。別に今までの学校の歴史を消すと言っているわけではないですよ。そういうことは歴史としての意味はすごく重要な意味があるんですけど、それとはまた別に未来を担う子供たちのために今決断をすることが必要なんだらうなと思っています。あとはお知恵をお貸しください。ぜひともあのスイッチを押すのは5人でえいと押すわけですから。

山本教育長

そのほかいかがでしょうか。

十河委員

今回の答弁の中で、体育施設についての質問が結構あったと思うのですが、これからちょっと夏が近づくところで、扇風機を配備していただいたりとか色々していただいて、環境は整ってきているかなという風には思っています。例えばこれからの時期、熱中症対策とかそういったことで製氷機のような設備が、体育施設とかに結構配備されつつあるとは思っているのですが、境港市の状況を、よろしければ教えていただけますか。

松本課長

製氷機というのは。

大部委員 氷がどんどん出来てくる機械のことですよ。

十河委員 はい。よく熱中症対策で、陸上競技場とか体育館とかに製氷機が用意してあって、アイシングで使われたりとか、それから暑い時期にはその氷をくださったりとかっていうことがあるようなんですけど、境港市の状況といたしますと。

松本課長 今正直初めてお聞きするような話ではあるんですけど、またちょっと体育施設の指定管理者や陸上競技協会だったりとか、皆さんの意見を聞いてみて来年度予算要求に挙げた方がいいということであれば。

十河委員 設備としても整ってきているので。

松本課長 どんなものか教えていただければ。

大部委員 小型冷蔵庫みたいなですよ。

十河委員 はい。ガチャッと開けると氷が出てくるというものです。結構この時期とかだとやはり熱中症対策としてアイシングだったりに使うことが結構あるようで、先日もちょっと岡山の方の陸上競技場に行ったらもうそんなのがたくさん置いてあって、好きなような感じでアイシングに使ってくださいというのがあるので。

大部委員 スーパーでいう氷をとってくださいみたいな。

十河委員 そうです。すごいなと思って。米子の陸上競技場には製氷機はありますけれど。

山本教育長 それは持っていくものですか。それとも備え付けですか。

十河委員 備え付けです。

松本課長 東山にもありますか。

十河委員 あります。布施とかにも当然あると思うんですけど、体育館にそういうのがあれば、打撲とかそういったときにアイシングとか、熱中症対策にもなるでしょうし。扇風機で整えていただくのもすごく有効だとは思うんですけど。そういうところをちょっとどんな状況なのか。

角課長 利用者の取り合いとかにならないですかね。

大部委員 係の人がどうするかですよ。

十河委員 状況がわかれば入る気がします。

山本教育長 学校で製氷機がある場所なんてないですよ。学校に置いている冷蔵庫の中にあるくらいで。

十河委員 高校はありますよね。

大部委員 部活とかされているところはあるんじゃないですかね。

山本教育長 冷蔵庫に保冷剤を入れておいて、打ち身などにはそれを使っていましたけど。

十河委員 どれくらいの費用になるのか等全然わかりませんけれど。

山本教育長 暑くなってきましたもんね。またちょっと探って研究させてもらいます。

山本教育長 そのほかいかがでしょうか（質問等なし）。それでは協議事項については以上となります。ここからの進行は事務局の方でお願いします。

【4. 報告事項】

事務局 それでは、報告事項・行事予定について、教育総務課、生涯学習課からお願いします。

《教育総務課 生涯学習課 行事等報告》

※松原局長より中学校西部地区総合体育大会、教員採用試験、芸術鑑賞教室、各小学

校修学旅行、県中学校総合体育大会、小・中学校第1学期終業式、境港市伊平屋村教育交流事業、小体連連合水泳大会、中学生国際理解教育推進学習、科学の学校等について説明

松本課長よりCS・地域学校協働活動推進協議会、ねんりんピック実行委員会設立総会、第5回ボッチャ大会、シークレットベース誠道、図書館連絡協議会、市展作品受付、市展審査・陳列、市展表彰式、境港市公民館活動研究集会実行委員会、境港市ピアノコンクール、ファミリーコンサート等について説明

《図書館 利用状況等報告》

※資料配布

事務局 ただいまの行事報告・行事予定について質問等ありますでしょうか。

十河委員 中学生の国際理解教育推進学習ですが、何名ぐらいが参加しますか。

松原事務局長 今年度は10名です。1、2年生が参加しています。今回は研修を3回実施するようになっていますが、6名のALT全員が協力しています。3回分は英語漬けで。

事務局 ほかに何かありますでしょうか。

十河委員 今日いただいた各中学校共通号のコミュニティスクール通信について。これは松田統括コーディネーターがおつくりになったものだと思うのですが、これをホームページ等に掲載していただきたいなとすごく思っています。一中、二中、三中のはちゃんと出していただいているのですが、こちらのも結構読み返したいときもあって。結構力も入っているものなので、これを多くの人に見ていただきたいので、できれば公開を。一中、二中、三中のはそれぞれ公開していただいてありがたいんですけど、これもぜひ公開していただきたいなと思います。ご検討よろしくお願いたします。

事務局 それについては検討させていただきます。ほかに何かありますでしょうか（質問等なし）。

次回日程確認。

【5. 閉会】
山本教育長

それでは本日の定例教育委員会は閉会といたします。ありがとうございました。